

よくばりヘルシープロジェクト～ RCC、フレスタとコラボ～ (管理栄養学科)

よくばりヘルシープロジェクトは、健康栄養学部管理栄養学科学生と(株)中国放送、(株)フレスタのコラボ事業です。学生が(株)フレスタの食材を使った家でも簡単にできる健康的なメニューを考案し、RCCラジオ 洲上沙紀アナウンサーとともに調理し、その様子を月1回RCCラジオ「ショコラジ」で放送するとともに、あわせてYoutube配信するというものです。2020年10月から2021年9月まで計12回の実施予定です。

毎月テーマと指定食材があり、これまで「クリームチーズで発酵鍋」、「お宝トマトとエビで素材を活かした料理(生春巻き)」、「鮭と玉ねぎのパイ包み」などのレシピを作成しました。テーマにあったレシピを考えることや調理はこれまで授業で行ってきたことですが、ラジオやYoutubeの収録は初の経験であり、いつもは素敵な声も笑顔も緊張で少しこわばります。ラジオで初めて聞く自分の声には、恥ずかしい気持ちと楽しい気持ちのこった煮状態になりました。毎回、洲上アナウンサーやスタッフの方の優しい言葉かけに助けられて収録を行っています。

最終目標は「健康的なお弁当」づくりです。メンバー全員、このプロジェクトに一生懸命取り組み、将来は地域の皆様の健康を支援できる管理栄養士を目指します。このような機会を与えてくださった(株)中国放送様、(株)フレスタ様に感謝申し上げます。

放送はRCCラジオ「ショコラジ」第3日曜日13:15頃から10分間の予定、YoutubeはRCC公式YouTube「ユイトム」でご覧いただけます。(野球中継により、放送週が変更になる場合があります。)



「食」がつなぐ地域の輪づくり「はちのこブンブン食堂」(管理栄養学科)

健康栄養学部管理栄養学科 沖本ゼミでは、子供や子育て世代の方、高齢者の方など様々な年代の方との食を通じたふれあいを目的に地域食堂を毎月1回、安芸郡府中町のお寺(久蔵寺)で開催しています。広島こども食堂支援センターから提供される物資を基に、魚や野菜を進んで食べる人が増えることを願って献立を作成し、調理し、提供しています。魚は、呉市蒲刈町で漁獲されるが市場に出ない魚(主にボラ)を加工されているNPO法人から無償でいただきますが、この魚を活用することは食品ロス軽減の一助となります。ボラを扱ったことのない学生は、ボラについて学び、調理方法を調べ、美味しく食べやすくする工夫をしています。さらに食材について知って食べていただくために、献立説明や資料配付等の食育にも取り組んでいます。参加者の方には、「お魚大好き!」「子供が魚が美味しいと喜んで食べる」「魚や野菜を食べる大切さを改めて知った」

などの声をいただき、学生自身の学びと併せて作り方を伝えると「やってみよう」と言われ、「よし、今度は何を作ろう」とさらに意欲が湧いてきます。幅広い年代の方とのコミュニケーションの取り方も身に付き、管理栄養士としての基盤づくりとなっています。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年12月からはお弁当を作り配付しています。一人暮らしのおじいさん、ベビーカーと手つなぎでお子さんと一緒に来られる若いママさんも「お弁当はありがたい」と喜んで持ち帰られています。

コロナ禍だからこそ、「食」がつなぐ地域の輪を大切に、絆を確かなものにしていきたいものです。



比治山大学・比治山大学短期大学部と比治山女子高等学校 高大接続事業の実施 アカデミックインターン

令和2年8月28日（金）に比治山女子高等学校2年生に向けて、比治山大学、比治山大学短期大学部教員8名によるアカデミックインターンを実施しました。

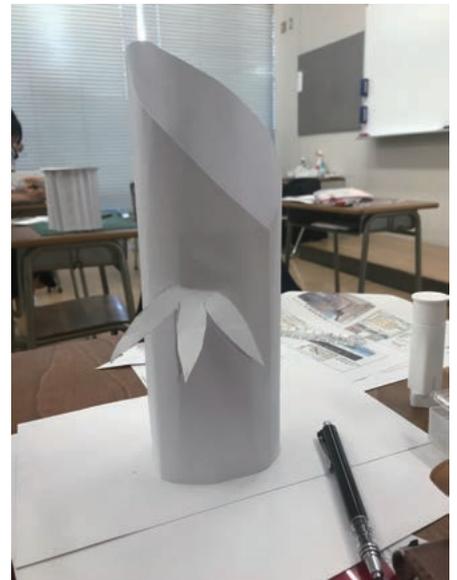
この事業は、「進学群に対応した分野の研究を学ぶことで、自身の個性や進路に対する適性を把握し、学習意欲や進路意識を高め、自身の進路に対して主体的に探究しようとする態度を育てる。」ことを目的に比治山大学・比治山大学短期大学部と比治山女子高等学校との高大接続事業として実施しました。

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、本学教員が大学に居ながらオンライン（一部、講座内容により対面）による実施となり、当日は比治山女子高等学校の生徒2年生132名が8人～21人の8グループに分かれ授業を受講しました。テーマを、英語・英文学、日本語学、保育学、マーケティング論、運動生理学、カルチャー論、住環境デザイン論とし、大学の授業を高校生に体験してもらいました。

受講した高校生からは「将来の進路の参考になった」や「大学の専門的な授業が受けられて楽しかった」といった意見が寄せられました。

また、授業を担当した教員は、高校2年生に大学の専門の授業を理解してもらうために、ハンドアウトや授業内容の工夫を行い、大学教員にとっても得ることの多い良い機会となりました。

今年度、初めての試みとなりましたが、来年度は高校2年生が大学キャンパスに来て本学学生と一緒に授業を受けてもらうようにする予定です。



打倒コロナ！支援の糸で繋いだ絆と学び

新型コロナウイルス感染症の影響で金銭的に苦しんでいる学生を支援するため、「3週間で50万円を集める」というクラウドファンディング(以下「CF」)に取り組みました。実施した活動は、「面接・審査の基準作り」「オンライン会議」「学内ポスター掲載」「世界へSNS動画発信」「チャリティー異文化交流会」「取材対応」など多岐に渡りました。この取り組みは、参画した学生にとっても深い学びとなり、貴重な経験となりました。支援金額はCFで52.6万円、街頭募金等で14.8万円程集まりました。まだ困窮学生や家庭は地域に多くいらっしゃると思いますが、このような活動が広がって欲しいと思います。以下は参画した学生による感想です。(高等教育研究開発センター 中村孝)



いざ活動を行うと言っても広報記事の執筆、申請書等書類の作成、ポスター制作といくつも課題がありました。更に差し迫る期限を前に、目標達成できるのかなと感じる瞬間も多々ありました。その打開策の1つとして、広島駅周辺で街頭募金を行いました。初めての経験だったので上手くいか不安だらけでしたが、多くの人に募金して頂き、目標金額の5分の1の金額を集めることに成功しました。その他の活動でも、メンバーと協力し、工夫を重ねることで無事にCFが達成できました。活動を終えた今、私達が強く思うことは一つ。今回の活動は、多くの人の手助けがないと達成不可能だったということです。企画・計画・実行を共にした有志のメンバー、支えてくれた先生、CFや街頭募金の多くの協力者。そんな人達の「支援したいという暖かい気持ち」が合わさって、今回の活動目標の達成に繋がったと強く感じました。協力して下さった多くの方々、本当にありがとうございました。(社会臨床心理学科2年 草本拓真)



サニクリーンアカデミー×比治山の産学連携プロジェクト「どろことそうじろうのびかびか教室」

比治山大学短期大学と一般社団法人サニクリーンアカデミーが連携して、幼児向けアニメーション動画と体操を共同で制作しました。このプロジェクトは、株式会社サニクリーン中国主催のサニクリーンアカデミーが、保育所・幼稚園小学校で、挨拶・掃除の大切さを呼びかける取り組み「どろことそうじろうのびかびか教室」の一環として実施しました。今回のプロジェクトでは、「どろことそうじろうのびかびか教室」(以下「びかびか教室」)にアニメーションを取り入れることでもっと楽しくしたいと、サニクリーンアカデミーの方から美術科にご相談いただいたことから始まりました。その「もっと楽しく」という要望に応え、アニメーションのみでなく、体操やワークショップを加え、一つのパッケージを作成するため、幼児教育科も共同で行うこととしました。

美術科の学生は、サニクリーン中国のイメージキャラクターであるネコの“どろこ”とクマの“そうじろう”を使ったアニメーションの制作を担当しました。「あいさつ編」「かたづけ編」「おそうじ編」「てあらい編」の4つをテーマに3名の学生がアニメーション制作しました。幼児教育科の学生は、音楽に合わせ、片付けや掃除の動きを取り入れた振り付けを考えること、幼稚園・保育園でアニメーション動画を使った「びかびか教室」の台本を考えること、それにより「びかびか教室」を実践することを担当しました。

学生たちは、学科ごとの専門による学びを活かし、企業の要望に応えることで、社会で活躍できる即戦力を養うとても良い機会になりました。

完成動画は、サニクリーンアカデミーのYouTubeチャンネルでも公開されていますので、皆様、是非ご覧ください。



コロナ禍での公開講座

今年度の牛田公民館との連携講座は「防災講座」と題して、2020年9月の防災月間に3名の講師がそれぞれの専門分野から災害・防災について講演を行いました。第1回目は、安間拓巳教授が「自然災害と考古学・歴史学」をテーマに、群馬県を中心とした火山噴火による被害の様子や遺跡に残る地震や津波の痕跡の事例、広島市内の遺跡調査で判明した土石流の痕跡について紹介しました。第2回目は、山崎初枝教授が「災害時における食からの支援」をテーマに、備蓄食品の紹介や要配慮者（乳幼児・高齢者・食物アレルギーのある方等）への対応等について講演を行った後、山崎ゼミの学生5名が、ガスや水が使えない時におすすめの簡単調理法「パック・クッキング」等を実演しました。第3回目は、林武広教授が「自然災害に向き合う」をテーマに、近年、広島で起きた災害、また今後起こりうる豪雨や地震などの自然災害について災害発生のメカニズムや様相に触れることで、個々の備えを考える講座となりました。

参加された方々は、近年の土砂災害の記憶もあり、どの講座も熱心に聴き入っておられました。また、「備蓄食品の種類や量について実際に見て理解できた」「パック・クッキングは意外に簡単で便利なのがわかった」等の感想が寄せられました。教室終了1か月後のアンケートから、講座参加後に備蓄品を揃えた人も多くあり、ご参加いただいた皆様の防災意識が高まってくることが期待できた講座となりました。



国土交通省「水の里の旅コンテスト2020」で2回連続の学生部門最優秀賞受賞！

マスコミュニケーション学科観光振興3年ゼミでは、企画立案力を試すとともに全国に中国地方の潜在的観光価値を発信すべく、全国版観光コンテストにチャレンジしています。2018年に初めて国土交通省主催「水の里の旅コンテスト」に応募し、学生部門で最優秀賞&特別賞のW受賞となりました。2回目のチャレンジとなる2020年の今年もまた全国34点の中から最優秀賞を受賞しました。このコンテストの主旨は、単なる観光ルートの考案ではなく「水の里」という水文化・自然環境の保全等に取り組んでいる水源地域の活性化への貢献です。したがって当ゼミでは、文献やインターネットによる情報収集はもちろん、何よりも事前の現地調査に重点を置いています。多くの現地関係者や地域住民との交流によって得られた情報や学び・気づき・現地の想いをいかに観光ルートに反映させ最大限の効果を発現させるかを常に意識して臨んでいます。

今年は山口県周南市に位置する島地川ダム水源地域である和田地区と鹿野地区を、初夏に1泊2日で回る親子ツアーです。企画主旨は①新型コロナウイルス禍で続く自粛生活から3つの活力（豊かな自然環境から得られる非日常的な解放感とアクティビティ・健康食グルメ・人との交流や体験から得られる前向きで楽しい気持ち）を現地の豊富な「水」資源から得られる企画であること②「近場観光」とは「地元周辺地域の魅力再発見」に他ならず、現地内外の親子を対象とすることで、地域の次代を担う子供達の交流が継続的な「関係人口」づくりとなるよう工夫した企画であることの2点です。企画の詳細は「水の里の旅コンテスト」のHP（国土交通省）をご覧ください。表彰式は2020年12月15日（火）、WEB参加でした（写真）。



学生の受賞・表彰



ひろしま給食100万食プロジェクト
(広島県教育委員会)

最優秀レシピ賞

管理栄養学科 2年 肖宇豪



協賛企業・団体による特別賞

管理栄養学科 2年 沖永里佳



馬路沙也加
塔迫紗良



東広島市美術展
(東広島市立美術館)

デザイン部門 優秀賞

美術科 2年 吉田妃七野



研究・教育活動に対する教員の受賞・表彰



奨励功労賞

(公益社団法人発明協会)

副学長 林武広



第1回杜のみやこ工芸展JAL賞

(公益社団法人宮城県芸術協会)

美術科 准教授 今田拓志



第1回広島文化新人賞

(公益財団法人ひろしま文化振興財団)

美術科 講師 宮崎しずか



あとがき

「比治山大学生涯学習・地域連携センター便り」(第6号)をお届けいたします。令和2年度はコロナ禍で中止となった公開講座や地域連携がたくさんあった異例の年となりました。今年度も感染症対策を行いつつ、これまで通り地域の皆様と共に行い、そして、皆様に貢献できる取り組みを行ってまいります。今後とも、本学の事業にご協力くださいますようお願い申し上げます。

[比治山大学ホームページ](#) > [大学案内](#) > [地域連携](#) > [生涯学習・地域連携センター](#) に掲載しております。こちらもご活用ください。

【教員研究ガイド】本学教員の研究内容を公開しております。

【公開講座】2021年度の公開講座案内を掲載しています。



比治山大学 比治山大学短期大学部

生涯学習・地域連携センター

〒732-8509 広島市東区牛田新町4丁目1-1

TEL: 082-229-0121

FAX: 082-229-5100

<https://www.hijiyama-u.ac.jp>

E-mail: shougai@hijiyama-u.ac.jp